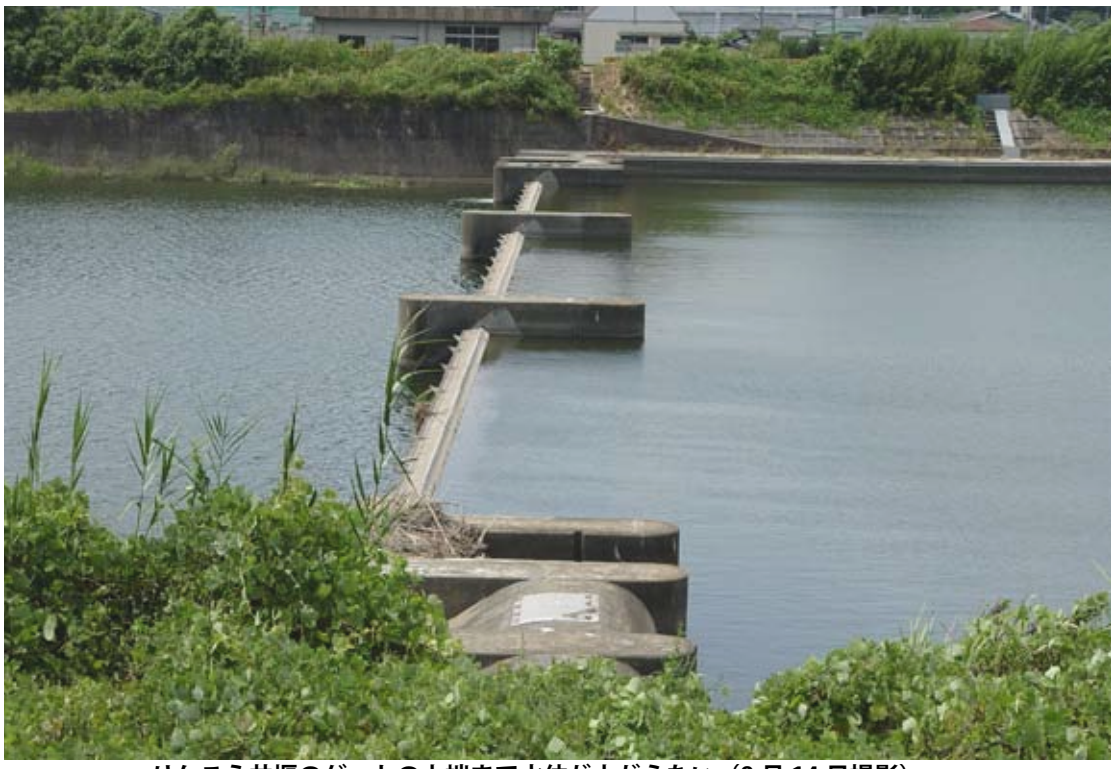
平成 20 年 9 月 1 日
第 16 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

かんかん照りに
椹野川の水位も記録的な低下



りんこう井堰のゲートの上端まで水位が上がらない（8 月 14 日撮影）

厳しい暑さのこの夏、雨らしい雨のないまま8月の中旬となりました。椹野川の水位はさらに下がり、農業用水の汲み上げもままならないような状況になりました。関係者は節水に心がけることや、関係各所と協力していろいろな対策を検討しました。

幸い、その後何度か雨が降り、漸く渇水の危機は脱しましたが、今更ながら水の重要性を実感することになりました。

鳥獣被害防止にやむなし



市道から農道への入り口が部分的に閉鎖

8月25日の未明からのイノシシ出現に営農生産組合のメンバーは事態を非常に重く受け止めました。「このままだと収穫前の水田をめちゃめちゃにされる」「こんな時期にイノシシが里に出てくるとは、聞いたことも無い」「もしも、このまま放置すれば今年の収穫はおぼつかない」何らかの対策が必要です。

話し合いの結果、一定期間市道（バス通り）から農道への入り口を閉鎖してイノシシの進入を防ぐことになりました。「多くの方が利用される農道ですが、ご理解を頂きたい」と営農生産組合の代表は語りました。

ご注意ください イノシシ出没

俺は去年捕まったイノシシ太郎の兄弟分のイノシシ次郎だ。ことしは例年になく暑い。山の食べ物も、ここんとこ少なくて歯ごたえのあるものが無い。

こういう時は里に下りるに限る。おっさんたちもまだ油断しているからな。もうちょっとすると稲穂もいけそうだが、まだちょっと早いな。取りあえず、畦のミミズでも頂いておくか。土は柔らかいし、餌はたっぷり。やっぱ、里はええな。

今晩はこのくらいにして、引き上げるとしよう、また来るぜ。

8月25日未明

八方原ふれあい盆踊り

「踊りと語り合い」地域の力を再確認

8月は夏まつりの季節。地区単位でこうした祭りを行うのはこうした機会を通じて地区内の親睦を図り、いろいろな問題も一緒に乗り越えようという意義もあるのではないでしょうか。

お盆前の土曜の夜、地区内の三角公園はたくさんの人で溢れました。新盆を迎えられたご家族を慰め、地域のきずなを確認する「盆踊り」。それぞれのスタイルで夏の宵を楽しみました。

協賛を頂いた企業の方や、祭りの裏方のおかげでことしも「ふれあい盆踊り」ができました。感謝。



小郡音頭、ふしの踊りは欠かせない

八方原・森下連合チーム圧勝



優勝の盾と賞状を手に全員でピースサイン

子ども会育成連絡協議会小郡支部は平成20年度の球技大会を8月10日に開催しました。今回は競技がドッヂビーとなり、15チームが参加しました。

八方原子ども会は森下と連合チームを組むことになり、朝のラジオ体操の後、練習を続けて大会に備えました。

競技に使う布製の円盤は柔らかく、軽いため、上手に投げないとまっすぐには進みません。そのコントロールがこの競技の面白さの一つでしょう。近くのものにはなかなか当たらないのに思いもよらない方向に進んで意外な結果になることもありました。

ゲームは内野のメンバーを全てアウトにするか、5分の試合時間終了時の内野メンバーの多い方がそのセットを取り、2セットを先に取った方が勝利します。練習を重ねて、ある程度戦法をつかんでいた八方原・森下連合軍はどのゲームも圧倒的な強さを発揮しました。結局1セットを落としただけで残りの全てのセットを勝ち文句無しの優勝を勝ち取りました。

子ども会の会員や保護者の方々、おめでとうございます。

神武（こうたけ）さんマレーシアからのお便り

ことしの4月からマレーシアのクチンというまちに行かれている神武さんとようやく、電子メールのやり取りができるようになりました。

神武さんご夫妻は、現地で日本語を教えるボランティアをしておられます。クチンというまちはボルネオ島の北西部分のサラワク州中心地です。



若者中心の日本語教室、後列に奥様



「クチン祭り」の華やかなパレード

現地でダム建設に携わった方がサラワク州に深い関わりがあり、その方との偶然な縁でこうした活動をすることになったとのこと。

すっかり現地の人々とも打ち解け、お祭りや魚釣りにに出かけて忙しく暮らしておられる様子。奥様も料理教室に参加するなど活躍の様子です。

今後もいろいろな情報が届くと思いますので楽しみにしていてください。



ボルネオ島の西部 丸印がクチン市